

# 宮古市愛宕地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 1 月 10 日掲載)

## (1) 宮古市愛宕地区の状況

愛宕地区民児協は民生委員・児童委員 8 名（うち主任児童委員 2 名）で構成されています。この地区は、元々の町である愛宕・光岸地地区（4 名）と、約 50 年前より山地に造成された中里団地地区（2 名）の大きく 2 つに分けられます。

東日本大震災の津波で直接大きな被害を受けたのは、愛宕・光岸地地区でした。ここは、宮古市中心部を流れる閉伊川の河口付近や入り江を埋め立ててできた土地も多く、海拔の低い場所が中心です。この地区の新川町には宮古市役所もあり、東日本大震災の津波による被害は、市役所より撮影された「宮古を襲う黒い波」の映像で皆さんご存知の通りと思います。

愛宕地区の震災前の世帯数は約 740 世帯、震災後の世帯数は約 450 世帯となっています。震災後に旧愛宕小学校校庭に建設された仮設住宅の世帯数は 48 世帯です。また、直接津波被害のなかった中里団地地区の愛宕公園（旧愛宕中学校跡地）にも 96 世帯の仮設住宅が建設されました。さらに、みなし仮設入居が 17 世帯あり、被災した自宅を修繕、新築した方々も多数おられます。愛宕・光岸地地区の民生委員・児童委員、主任児童委員のうち、4 名の自宅が全壊し、それぞれ避難生活を送りました。

このように、この地区はそれぞれの被災状況が異なる人々が多数混在しており、刻一刻と変わる世帯ごとの状況を把握するのが非常に困難となっていますが、社会福祉協議会の生活支援相談員や、民生委員・児童委員、主任児童委員が相互にコミュニケーションをとりながら、日々集めた情報を交換し補い合い、震災後の地区民児協の活動を滞りなく行なっています。



2011 年 3 月 12 日 愛宕小学校からみた被災状況



2011 年 6 月愛宕小学校にて ボランティアと社会福祉協議会で連携し、炊き出し、栄養教室、支援物資無料バザー、無料カットサービス、子どもの遊び場などを作り、被災者向けのイベントを開催

## (2) 震災後から現在の活動状況

### ①愛宕地区敬老会の開催

震災のあった 2011 年、例年主催していた愛宕地区敬老会をこれまでと変わりなく

開催しました。

この年の地区敬老会の開催は、地区民児協定例会が行なえるようになった 2011 年の夏に、開催が可能かどうかを協議し、開催を決定した後は、仮設住宅に地区外から入居した高齢者にも参加を呼びかけました。まだ仮設住宅入居後間もない時期で自治会もない状態でしたので、高齢者がどこに何名入居しているのかを把握するまでに担当地区の委員は相当苦労しました。しかし、その甲斐もあって、その年の敬老会は多数の出席者を迎え、主催者・参加者一同、開催できた喜びに包まれ大盛況で終えることができました。

以来本年の 2013 年まで、仮設住宅入居の高齢者と地区の高齢者が一緒になって愛宕地区敬老会に参加しています。このような行事が開催できるのも、震災前より日常的に細やかな見守り活動を委員一人ひとりが行なっていることによるものと思っています。

## ②愛宕小学校の閉校にあたり

地区の小学校であり、震災時には避難所として地区住民の心身ともに拠り所となった愛宕小学校が 2012 年 3 月に閉校式を迎えました。閉校は震災前から決まっていたことでしたが、全校生徒 38 名は、心や家庭に震災の傷跡を残したままそれぞれの事情(家屋全壊のためやむをえず等も含む)で 7 つの学校に別れねばなりません。地区民児協では閉校に伴う様々な事業に協力するのはもちろんのこと、主任児童委員を中心に学区内の各子ども会と連携を図り、2012 年 2 月に「愛宕小学校 親と子によるお別れ会」を開催しました。愛宕小学校に通う子どもたちとその親を招待し、歌あり、かくし芸あり、クイズや景品付きくじ引きなど、楽しいお別れ会となりました。

さらに翌 2013 年 2 月には、愛宕地区民児協主催による「平成 24 年度元愛宕小児童卒業おめでとう集会」を主任児童委員が中心となり開催しました。愛宕小学校で卒業年度を迎えられなかった閉校時 5 年生だった児童とその親たち、先生方、地区の方々を招待し、閉校して以来施錠されていた愛宕小学校を会場として、地区の子どもたちの小学校卒業を祝う会としました。学校で校歌を歌い、地区民児協会長から卒業記念品を手渡しし、閉校後も登下校を見守ってくださった地区住民の方々への御礼をした後、校内を舞台とした楽しいゲームを行ない、出席者一同で懐かしい校内を散策して記念写真を撮りました。その後、愛宕コミュニティーセンターで食事会と現在それぞれが通う学校の校歌発表、大



2013 年 2 月愛宕小学校卒業おめでとう集会にて  
上：地区の小学校卒業生に記念品を手渡しする民協の会長  
下：子どもたちと出席者一同の記念写真



人たちは子どもに向けて「仰げば尊し」を歌い、震災に負けずに遠方の学校に通う愛宕地区の子どもたちの成長を皆で祝いました。

### (3) おわりに

以上、地区民児協として震災後に取り組んできたことを、高齢者の見守りと、地区の子どもたちの育成に分けてご紹介しました。これ以外に、昨年までは避難所や愛宕地区に来られるボランティアも多く、そうした方々の活動が地区で円滑に行なえるように、住民への声かけ、お手伝いなどの協力を皆で積極的に行なっていました。

これらのことは、震災があつて、にわかにできることではなく、それぞれの委員の日常的な細やかな見守りや声かけ、委員同士のコミュニケーション、さらに先輩委員たちが築き上げてきた愛宕地区民児協への地区住民の信頼があつてできたことと思っています。

今後も、日常のこと、自分ができる範囲のことを誠実に行なう、ということは何より大切に、愛宕地区民児協の活動に生かすためそれぞれが取り組んでいきたいと思っております。

最後に、震災直後から今日まで、全国の皆様から多大なご支援を頂き、誠にありがとうございます。歳月の流れとともに、震災当初の困難を極めた生活や、その中で地区の方々と共に歩んだこれまでの日々の細かな記憶は薄れざるを得ません。しかし、震災を決して忘れてはならないこと、支えて下さった皆様のお心とともに後世に伝えていかねばならないことであると自分たちの心に刻んで皆で歩んでいきます。